

四国あるき遍路の旅



平成23年11月25日（金）～27日（日）

目次：	頁
三十九番延光寺	4～
四十番観自在寺	10～

上の写真は、観自在寺から旧内海村柏に向かう「室手海岸」で見た夕陽です。

とっとと歩いた皆さんは見る事ができなかったと思いますが、たまには、ゆっくり歩くと、こんな景色を見ることができます。

伊予への関所は、松尾峠だけにあらず。

いよいよ土佐の国を打ち終え、伊予の国へ足を踏み入れました。

その関所となるのが「松尾峠」。一巡目では、本降りの雨と霧の中を、難儀しながら越えた峠です。

その前に、檀家の沖山さんが生まれた「柏島」にて、峠越えの鋭気を養うことにしました。伊勢海老のお接待をいただき、十分鋭気を養ったところで、松尾峠は好天に恵まれ、難なくクリア。と思いきや、3日目には、旧内海村の「柏坂」という、坂というものの松尾峠よりも標高が高い山越えがありました。

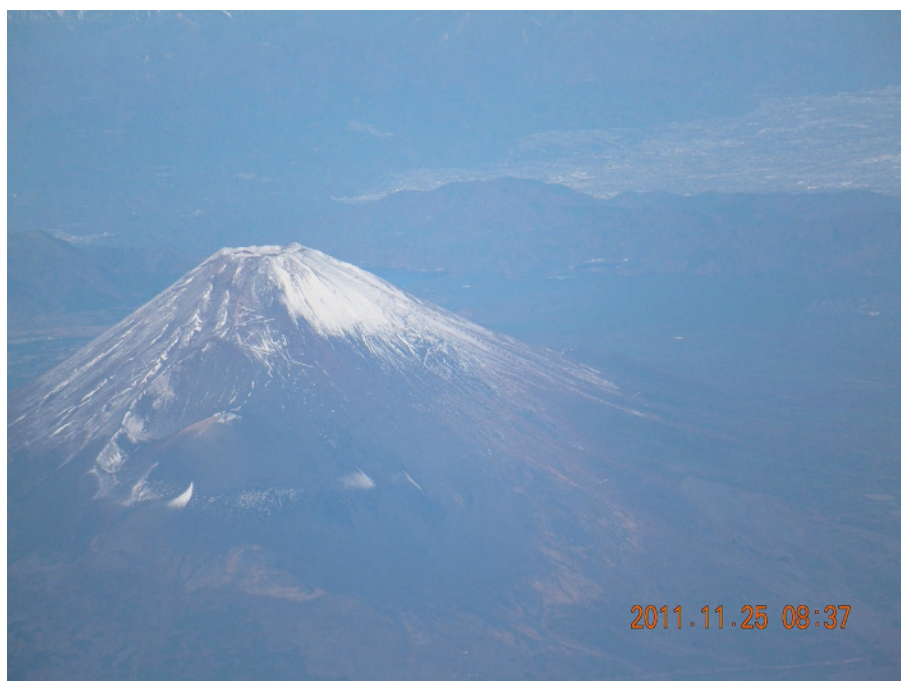
しかし、予定よりも早く下りることができ、帰路の途中で宇和島城を見学することができました。

最後の高知行き

3日間の天気予報は、「晴れ」。

飛行機内では、「右手に富士山がご覧いただけます。」とのアナウンス。右側に坐った人はいいなあと思っていたら、四国に近付くと左手に室戸岬を望むことができました。といっても、富士山よりもマイナーらしく、機内のアナウンス

はありませんでした。あそこまでは、甲浦からバスに乗ってたどりついたとか、あの突端から最御崎寺までの坂は急だったとか思い出していると、「あと十分ほどで着陸態勢に入ります。」とのアナウンス。いよいよ二順目最後の高知龍馬空港に下り立ちます。



ご存知、高知駅

第七回同様、空港から連絡バスで高知駅へ。列車の時間まで1時間近くあるので、駅の市内側に出てみると、右手に観光案内所の「とさてらす」というのが新しくできていました。そして、時あたかも、「志国高知 龍馬ふるさと博」というイベントの最中だったようで、「とさてらす」の前には、坂本龍馬・中岡慎太郎・武市半平太の巨大な像が並んでいました。

高知駅で特急に乗り換えて、今回は終着の中村駅まで2時間弱です。予約しておいた「日曜市のオバア弁当」を、駅売店で受け取り、しばし電車の旅です。



左は、「日曜市のオバア弁当」。下は、高知にすっかり定着したアンパンマンの電車とゴミ箱。



中村駅から平田駅

特急の終着駅「中村」でアンパンマンに別れを告げると、次は何やら得体のしれないキャラクターが出現。何の関連か、ひよこと見まごう黄色いヤツ！しかも、赤い車体に黄色いひよこです。

発車までのわずかな時間に、ホームから行先のプレート撮影して、黄色いひよこに合点がいました。行先は宿毛、高知最西端の終着駅です。この宿毛で有名な、冬の時期に見られる「だる

ま夕日」なのです。赤い車体の黄色いひよこの正体は、だるま夕日に違いありません。そう気づいて見ると、だるま夕日に見えなくもありませんが、禅僧としては、だるまにしてはかわいすぎると思いつつ、ひよこの胴体に潜り込んで、あと20分で平田駅です。

8時に飛行機に乗り込んで、6時間近い移動もまもなく終わります。



ようやく歩ける

土佐くろしお鉄道の平田駅で下車し、ここから三十九番延光寺まで歩きます。

6時間近い移動から解放されて、ようやく自分の足で歩くことができます。天気もいいし、紅葉

もいいし、同行の仲間もいいし、今回の遍路も気持ち良く歩けそうです。道端のお地蔵さんも、心なしか微笑みかけてくれるように感じます。



延光寺で思い出すこと

足摺から延光寺までの遍路道は、中村方面に戻って山越えをする道が二本と、土佐清水から竜串を通過して山中の三原村を通過する道、そして、竜串からさらに海伝いを西に進んで途中から大月町を抜けて宿毛に出る道と、およそ4ルートあります。

毎回、あるき遍路に行く前に、かつて一人で歩いたときの記録をめぐってありますが、私が歩いたのは、竜串から三原村を抜ける道だったようです。

残念ながら、みなさんをご案内している四国あるき遍路の旅では、これら4ルートのどれも通れずに平田駅を利用しています。いつか、私も歩いていない海伝いに西に進む遍路道を歩きたいものだと、遍路地図を見ながら思っています。

一人で歩いたときの記録をめぐっていると、延光寺に宿坊があるのに、民宿ひょうたんという所に泊っていました。延光寺をお参りした後、そのひょうたんを探してみましたが、それらしき場所の建物は閉鎖されていました。

記録では、この民宿で同宿した広島から来たという85歳の女性のお遍路さんに、土佐名物の皿鉢料理をお接待いただいています。この人は、同行の人から先生と呼ばれてい

て、もう80回以上回っていると、金色の納め札をいただきました。翌朝、宿泊代までお接待いただき、また民宿からはお昼のお弁当をお接待してもらいました。

そして、土佐の修行の道場も終わるのだから、伊予に入ったら、今まで断ってきたお接待を受けることにしようとして書いてあります。それまでに、自動車のお遍路さんが、どうぞ乗って下さいと言われることがよくあったものですから・・・。

延光寺に来ると、いつもあの老遍路を思い出しますが、すでに25年の歳月がたち、民宿ひょうたんも閉じられたように、あの老遍路もこの世にはいないのだらうと、感謝を新たにしつつ、心の中で合掌するのです。

延光寺を後にして、東宿毛駅まで歩こうと思ったのですが、この日は宿毛からタクシーで40分もかかる柏島まで行く予定でした。延光寺を出て間もなく、沖山さんから電話があり、宿には何時にきますかという問い合わせ、日も短いですからねえとの言葉に、えーい、お接待をいただいたと思って、56号線近くからタクシーに乗って、一路柏島を目指すように決めました。



延光寺山門



柏島「和泉屋旅館」



柏島

柏島は、高知県幡多郡大月町にある島である。足摺宇和海国立公園に指定されている。宿毛湾の南に突き出た大月半島の先端に位置し、豊後水道と太平洋の境にあり、黒潮の流入で周囲の海は温暖である。このため1,000種類近い魚種が確認でき、島の北部にはテーブルサンゴなどの珊瑚礁がある。スキューバダイビング、釣りなどのレジャーで賑わう。

柏島は、今では橋でつながっており、車で行ける高知最西端の場所です。映画「釣りバカ日誌」の舞台にもなった場所で、釣りとダイビングが有名なのだそうです。

延光寺門前からタクシーに乗ったおかげで、なんとか日のあるうちに到着することができました。宿は、沖山さんに紹介してもらった「和泉屋旅館」。さっそく、夕日を見ようと外に出ましたが、島の西側に高い山があり夕日を望むことができませんでした。それでも高台に行けばと、小学校に行ってみたものの、ここからも見ることはできませんでした。やけにひっそりした小学校だと思ったら、すでに閉校となって校庭も草が茂っていました。どおりで、金曜日だというのに島に子どもの姿が見えないわけです。

柏島は、遍路道からもかなり離れており、遍路で訪れることのない場所ですが、沖山さんとのご縁で訪れることができました。そうでなければ、一生知らずにいるところでした。島の隅々まで見たかったのですが、すでに陽も沈んでしまい、宿に戻ることにしました。宿の座敷には、お茶と手作りの草餅のお接待。よもぎのふんだんに入った手作りの草餅は、ボリュームもふんだんで、おいしくいただきました。

夕食は、島の魚、イカの天ぷら、とこぶし・・・それも3個も、そして、沖山さんの差し入れのゆでたての「伊勢エビ」を弟さんの亀井実さんが運んで来てくれました。しかも一人1尾ずつ。前回の焼酎のお接待も驚かされましたが、伊勢エビには一同驚嘆の声でした。

テレビの旅番組では、こんな伊勢エビを食べるシーンを見るのですが、1尾まるごと食べられるなんて、生まれて初めての経験でした。目の前に現れると、まずは写真！写真！。そして、即席グルメリポーターと化して、全員が伊勢エビと記念撮影。でも、伊勢エビの漁獲量は千葉県が全国第1位だそうで、漁獲量1位の千葉県民が、高知で伊勢エビに感動している姿は、なんとなく面白い取り合わせでした。



柏島産の伊勢エビ



【左上】 始発のバスは、7:05発。日の出の写真を撮ろうと思っていたのに、なかなか顔を出してくれないお日さまが、バス出発間際ようやく出てきました。

【左】 バス停は、「和泉屋旅館」の真前で、ここが始発です。柏島の橋のところで中学生が乗ってきましたが、乗客が多いのに驚いた様子でした。

【上】 島を歩いて見つけた、津波避難場所の案内板。避難場所で、「田中さんの畑」というのが面白くて撮ってきました。

第8回のあしあと

期日		曜日	コース予定						食事・宿泊
1	11月25日	金	7:30	8:05発		ANA561	09:35着	10:05発	【歩いた距離】約3.2km
			羽田空港集合		羽田空港		高知龍馬空港		
			空港連絡バス	10:39着	11:34発	JR土讃線	13:24着	13:30発	屋食:「日曜市のおばあ弁当」 安藤商店 088-883-1000
			高知駅	「南風3号」	中村駅				
			土佐くろしお鉄道	13:50着	14:00発	一徒歩—	14:45着	15:15発	「和泉屋旅館」 幡多郡大月町柏島 TEL 0880-76-0039
				平田駅	約2.7km	39番延光寺		18:00	
			一徒歩— 約0.5km	15:30発	延光寺門前よりタクシー分乗(約50)	16:30着	18:00		
					柏島	「和泉屋旅館」夕食			
2	11月26日	土	6:00	7:05発	一高知西南交通—	8:19着	8:30発	一徒歩—	【歩いた距離】約20.9km
			朝食	和泉屋前バス停	74分	宿毛駅		約3.6km	
			9:35着	一徒歩—	10:15着	10:50(全員到着)	11:15発	一徒歩—	
			松尾峠登り口	約1.7km		松尾峠		約1.5km	
			11:40着	一徒歩—	12:05着	12:20発	一徒歩—	12:35着	
			小山の舗装道路に!	約1.7km	境石の神社(仏)	約1.2km	一本松バス停		
			12:41発	一宇和島バス—	13:00着	13:05着	13:40発	一徒歩—	
			一本松バス停		平城礼所バス停	40番観自在寺		約1.0km	
			13:45着	14:40発	一徒歩—	17:00着	18:30		「かめや」 南宇和郡愛南町柏2053- TEL.0895-85-0007
			レストラン「なにわ」(屋食)	約10.2km	内海「かめや」	夕食			
3	11月27日	日	7:00	8:00発	一徒歩—	8:30着(8:55全員到着)	10:45着	【歩いた距離】約9.3km	
			朝食	かめや旅館	約3.2km	柳水大師	約4.5km	小祝中橋	
			10:55発	一徒歩—	11:25着		11:49発	一宇和島バス—	
			小祝中橋	約1.6km	太門バス停	禪蔵寺にて屋食太門バス停			
			12:26着		14:56発	JR予讃線	16:18着	16:40発	
			宇和島駅	宇和島城見学	宇和島駅	「宇和海18号」	松山駅		
			一空港リムジン—	16:55着	17:40発	JAL1472	19:00着		
				松山空港			羽田空港		
									【歩いた距離】約33.4km

松尾峠の登り口へ



柏島を出発したバスに乗ること、約1時間15分。宿毛駅で降りて、いよいよ松尾峠への遍路道を歩きます。

一巡目では、雨に煙っていて峠の山が全く見えませんでした。その上、国民宿舎のバスで、登り口に行く分岐まで送ってもらいました。今回は晴天、一巡目でバスを降りたのはどこだったのかと探してみましたが、皆目わかりません。舗装道路を歩いて来て、いきなり登りだったことを覚えていまずから、運転手さんが登り口の近くまで連れて来てくれたのだと思います。

今回は、宿毛駅から遍路道へと入って、山裾を辿って行きました。いきなりの森の中もあり、すでに松尾峠への道かと間違ふほど

でした。

しかしながら、天気によって、こんなにも違うのかというほど、山裾の道から宿毛湾が見え隠れしたり、みかん畑を眺めたりと、心に余裕が感じられます。でも、やはり本当の修行は、わき目も振らずに黙々と歩くところにあり、そこで自分の弱さに対面したり、相手を慈しむ心を発見したりするのだと思います。ですから、雨はありがたいし、きつい山坂もありがたいと思っています。

この山裾の少しアップダウンのある遍路道は、松尾峠への準備体操といったところでしょうか。

先を見ると、一人のお遍路さんが見えました。一人は黙々と歩いていました。



松尾峠の登り口で

松尾峠到着

松尾峠への登り口の標高は約10m。松尾峠の標高は、300m。登り口から松尾峠までの距離1.5kmですから、1.5kmで290mの登りということになります。

やはり一巡目と比較してしまいましたが、合羽を着て坂を登っていくと、内側からも濡れるし、といって合羽を脱ぐわけにもいかず、疲れて腰を下ろすこともできませんし、気分を癒す景色も、雨に煙って見えないのでした。今回は、天気恵まれ、足元が滑る心配もなく、途中のベンチで腰を下ろすこともでき、木々の間から少しずつ宿毛湾が顔をのぞかせ、約40分で松尾峠に到着しました。後続も、約30分遅れぐらいで全員到着。その間に、大師堂を開けたり、路傍の墓石を起こしたりする時間もありました。雨の日に登った時には、何時間もかかったような気がしていましたが、初めての人にはそれほどの難所にも思えなかったのではないのでしょうか。

松尾峠の東屋が、一巡目ではようやくたどり着いた避難小屋のように

思えたのですが、今回はどこにでもある東屋にしかなかったのも天候によるのでしょうか。

くにざかい

国境はいつの時代でも要所と考えられ、松尾峠のそばにも純友城という城があったそうです。今では展望台が設けられているというので、行ってみました。あまり訪れる人もないと見えて、迷いそうになる落葉の道を行くと、宿毛湾を一望でき、その先には昨日泊った柏島あたりまで望むことができる絶景が広がっていて、しばし風景に見とれる程でした。【右頁の写真】

松尾峠の大師堂を開けさせてもらい、全員で般若心経をあげて、松尾峠を後にすることにしました。いよいよ、伊予の国に足を踏み入れます。



松尾峠から一本松へ



ピタリ、一本松

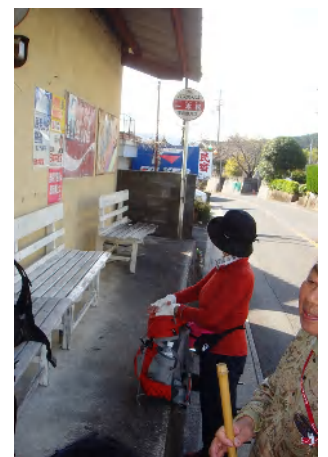
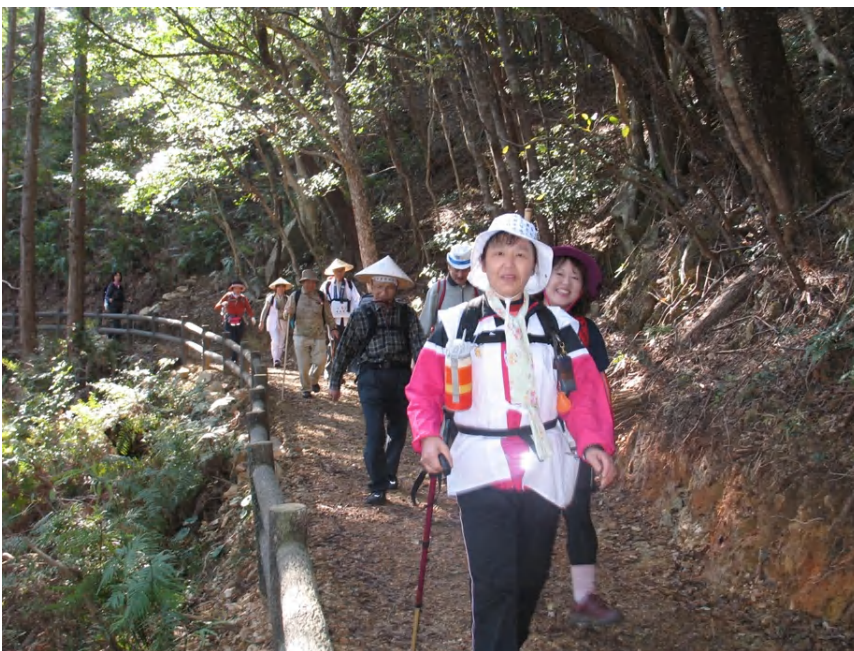
愛媛県に入ると遍路道の整備具合が違いました。道幅も多少広めで、柵も整っていて、まるで公園の遊歩道のような感じです。歩きやすさもあり、下りということもあり、一気に愛媛県側の松尾峠登り口まで下ってきました。

雨の日には、カンタローが出てくるのですが、今回は一回もお目

にかかれませんでした。失礼、カンタローとは、山の妖怪でも北風小僧でもなく、シーボルトミミズのことですからご安心ください。まあ雨ではなかったので出て来ないのならいいのです。野生動物保護でイノシシが激増して、カンタローがいなくなったのではと少し心配になりました。でも、出くわすと、あの瑠璃色にドキッとするのですが・・・。

松尾峠で少々ゆっくりしすぎたものですから、一本松でバスに乗り遅れても、昼ごはんでも食べて・・・などと思っていたのですが、なんと一本松バス停にはバス到着の6分前に到着という離れ業でした。

一巡目では、ここの民家の軒先で、ずぶぬれになった服を着替えたなんて思ったのですが、すでに8年もの歳月が過ぎて、そんな家は跡かたもありませんでした。でも、バス停は、その前の建物、ベンチの置き方も以前のままでうれしくなっていました。



伊予最初の札所

一本松からバスに乗り、旧御荘町に入ると長い町並みが続き、かつて栄えていたことがわかります。御荘町の由来は、延暦寺の荘園があったことによるもので、町内を流れる川の名前が僧都（そうず:僧を管理する役職名）川というのうなづけます。そして、バス停の名前にもなっている平城（ひらじょう）の町は、観自在寺の門前町として開けたといえます。

ということで、観自在寺は町中にあるお寺で、急な参道もなく、角を曲がればすぐ山門が目につきます。

高知最後の延光寺には、山門に入ったところに亀の彫り物がありましたが、ここ観自在寺にはカエルの彫り物があり、側に語呂合わせの言葉が書いてありましたが、私も考えてみました。【右です。】

かえるの五戒

ふんぞりかえる
そっくりかえる
さしつかえる
にえくりかえる
あきれかえる

かえる三徳

はらをかかえる
いきかえる
われにかえる



山桐さん、靴下をはきかえるのかと思っ
たら、ケロンパス？ではなく、サロンパス
をシューでした。

左上の「かえるの五戒」は、やってはいけないこと。

左下の「かえる三徳」は、かえるにちなんだ大切なことで、ユーモアを忘れないこと・生き生きと日を過ごすこと・自分を見失わないこと。

※左記の「かえるの五戒」「かえる三徳」とも、私のオリジナルで著作権がありますので、特に使いたくもないでしょうが、無断転載・使用を禁じます。





旧内海村、室手海岸の夕日。

【上】町村合併で無くなった内海村の看板。「旧」のシールが貼られていました。

【下】避難場所の案内板です。ただ「お寺」と書いてあります。これで地元の人には通用するわけです。気になって翌朝お寺に行ってみると、お寺にも宗派や寺名を表示したものはありませんでした。なるほど、「お寺」なわけです。

せっかくの歩きだから

観自在寺で昼ごはんを食べられる場所を聞くと、国道に出て右に行ったところにある「なにわ」というレストランを紹介してもらいました。

うどん・そば、刺身、とんかつ、ラーメン・・・、なんでもありのレストランでした。すでに2時近くだったので待たされることもなく、2階の座敷に通され、各自好きなものを注文。鯖の刺身定食が人気でしたが、5人前しかないとのことで涙を飲んだ人もいたようです。

店の様子からして、注文したものが出てくるのに時間がかかりそうだったので、ここで提案をさせてもらいました。ここから今日の宿がある旧内海村の柏まではずっと国道を歩く道。バス路線にもなっているので、ここから路線バスに乗って移動ということでもいいのですが・・・と。皆がそうしようと言うかと思いきや、「せっかく歩きにきたのだから歩きましょう。」との頼もしい意見が出るという誤算！では、5時には宿に着くように、と話はまとまり、ご飯を終えて出発。

出発するや、皆すたこらと国道

を歩いて行きました。私はといえば、御荘の海沿いの道を歩いたり、途中古い遍路道を見つけては国道をそれたり、田んぼのあぜ道を歩いたり道草しながら歩いて行きました。

一人で歩いているのなら、逆にこんなのにのんびり歩くことはありません。1日1日、歩けるところまで歩いて、夕方になって宿を探して泊るからです。ところが、団体の歩き遍路では、途中で宿を変更したりすることもできないので、時間が余ればのんびり歩けるのです。でも、この先どんな山坂があるか、どれくらい時間がかかるか分からないなどという不安があると、先へ先へと急いでしまうのでしょうか。なにやら、日々の生活や人生に似ていると思いつつ歩いていると、ようやく道は海沿いに出ました。

室手海岸というのだそうです。のんびり歩いてきたので、ちょうど夕日の沈む時間になりました。この夕日を皆にも見せたいなと思いましたが、前方に人影も見えず、私が一人占めさせていただきました。夕日を眺めてから、宿に着いたのはちょうど5時でした。



旧津島村柏の遍路宿「かめや」



はじめての「柏坂」

四国あるき遍路のルートを決める上で、インターネットは欠かせません。今回歩く「柏坂」も、インターネットで情報を得た場所です。一人で歩いた記録を見ると、柏から海沿いに進んだところにある須の川で休憩したと書いてありますから、この柏坂は、初めて歩く遍路道です。

「坂」とはいうものの、標高は松尾峠より高いと来ていますから、少々不安もありますが、ネッ

ト情報ではずいぶん整備してあるらしいので大丈夫でしょう。

歩きはじめてほどなく、柏小学校の子どもたちが作ったと思われる「おせったいはなばたけ」もあり、不安を和らげてくれました。

最初の休憩場所の柳水大師までは、結構険しい登りでしたが、そこからはうっそうとした木立の中を尾根伝いに歩く感じで、幾分拍子抜けといったところでした。



二か所目の絶景



柏坂の遍路道には、水にまつわるお大師さんが二か所、柳水大師と清水大師でした。

あちこちのお大師さんをお参りした皆さんなら、柳水大師は柳の枝を地面にさしたら水が出てきたといういわれはたやすく想像できるでしょう。清水大師も、清水がこんこんとわき出るとか、出たとかの話となりますが、あの山中うっそうとした中にある清水大師では、年一回奉納相撲が催され、市まで立ったというのには驚かされました。あの急傾斜のどこに土俵を作ったのか、あの高い場所まで、どうやって市に並べる品物を運びあげたのか、先人たちのすごさを思うと脱帽です。

清水大師を過ぎてしばらく行くと、急に視界が開けました。標識

が立っており、「つわな奥」とあります。意味がわからず、帰ってから調べると、「つわな」はツワブキのことだそうです。「奥」の意味は不明でした。もう一つ、意味がわからなかったのが、鉄パイプで組まれた足場で、これは何年か前にここで開催された芹洋子さんのコンサートの舞台なのだそうです。あんな所でコンサートとは！と、これまた驚きでした。

「つわな奥」から眼下に見えたのは由良半島で、晴れた日にはその先に遠く九州まで見えるのだそうです。後で、地図で確認すると、「つわな奥」の真西に大分県の佐伯市が位置していました。松尾峠の展望台に続いて、今回の歩き遍路で二か所目の絶景を見せてもらいました。





同じ宗派のよしみ

国道56号線の大門バス停に、かなり早く着いたので、バス停そばの妙心寺派禅蔵寺に立ち寄り、ここで弁当を開くことにしました。禅蔵寺は無住のお寺だから、軒下や縁側をちょっと拝借して・・・、と思っていたら、参道を登ってくる和尚の姿。これかと思ひ、挨拶をさせていただき、ついでに吉田町大乘寺にお参りに行ける時間があるか尋ねると、このお寺の開山一千年法要の導師を大乘寺の老師をお願いしたばかりですと、老師が揮毫された角塔婆を

見せてくれました。大乘寺の老師は、私の平林寺の後輩で、かつて一緒にチベットに行ったことのある方。残念ながらお忙しくてお伺いできませんでしたが、なんと世間は狭いもの。

私たちが予定より早く着いたこと、バス到着まで時間があつたこと、向こうの和尚さんはこの日が檀家さんの四十九日だったこと、そしてお寺のお墓に納骨に来る時間だったこと。同宗というだけでない、たくさんの縁が結んだ不思議な出会いでした。



宇和島城へ



予定より早いパスで宇和島に到着したので、せっかくなので宇和島城の見学に行きました。

お城の案内をしてくれるボランティアのガイドさんが、手持無沙汰にしていました。櫻田さんが何か尋ねたのがきっかけだったのでしょ。次から次に、いろんなことをご説明して下さいました。

天守閣から出てきて、記念の写真を撮ろうとなり、先ほどのボランティアガイドさんにシャッターをお願いしました。デジカメの扱いは大丈夫かなと心配するぐらいの年齢の方でしたが、出来た写真は、左の通り。構図もピントもばっちり、お見それしました。

高知でかんざし、松山でマドンナ



松山駅で、空港連絡バスに乗り換えるために、空港行きバス停に行くと、かすりに袴の女性が立っていました。大学の卒業式でもあるまいしと思ったら、「坊ちゃん」に出てくるマドンナの格好をした観光ガイドなのだそうです。どうりで愛想がいいわけです。

図に乗って、写真を撮ってもらいました。律子さんがくつつき過ぎと言っていました。写真を見てわかるように、くつついてきたのはマドンナの方ですから、誤解

のないように・・・。

はりまや橋で五台山の純信さんはかんざしを買いましたが、松山では和尚がマドンナと写真を撮りました。でも、歌にはなりそうもありません。

土佐の道場を終えて、伊予に入ったら、いろんな出会いがありました。その締めくくりにマドンナでしたから、きっと、伊予の道場はもっとたくさんの良い縁に恵まれて歩けそうな気がします。

おつかれさまでした。

写真：広渡 寛行
山桐 伸一
梁川 律子
宮田 宗格
文：宮田 宗格
編集：宮田 宗格

編集後記

いつも、カメラを持ったら別人になる石川先生が、娘さんの結婚式のために参加できず、それと知ったみなさんが石川先生が来ないからと言って写真を撮たくさん撮っていました。それらをかき集めて、今回の写真集ができました。

あくまで写真集で、文章は写真の引き立て役であり、余白を埋める材料なので、中にふざけたところや失礼なところがあっても、どうぞお赦しをいただければと存じます。

なお、この写真集は圓福寺ホームページにも掲載させていただくことを、あらかじめご承知おきください。

次回第九回は、平成24年2月24日から26日の二泊三日を予定しております。札所は、四十一番から四十三番の3ヶ寺です。

つたない写真集を最後までご覧いただき、ありがとうございました。

臨済宗妙心寺派 圓福寺

263-0025

千葉市稲毛区穴川町375

電話 043(251)9181

FAX 043(251)9549

http://www.chiba-enpukuji.com

Email: oshou@chiba-enpukuji.com



2巡目第8回
平成23年
11月25日～27日